

○3番（鴨志田悟議員） 3番鴨志田悟でございます。ただいま議長より発言のお許しをいただきましたので、通告順に従いまして、一般質問をさせていただきます。

今回は、大きく2つの項目、鉄道を活用した地域の活性化について、中学校部活動の地域移行についてを質問させていただきます。

初めに、大項目1、鉄道を活用した地域の活性化について質問させていただきます。

現在、市内のJR水郡線には、河合駅、谷河原駅、そして常陸太田駅の3つの駅があり、通勤・通学をはじめ、観光客を含め、多くの方に利用されています。特に常陸太田駅では、パークアンドライドやキスアンドライド、サイクルアンドライドができる施設整備も進み、駐車場の改善など、利便性が図られているところです。

一方、少子・高齢化の進行とともに、利用客の減少や駅周辺の商店の減少など、まちづくりの拠点としての課題を指摘されています。

国土交通省では、昨年、街路交通施設課において、鉄道沿線まちづくりの取組の提言が示されました。そこでは、鉄道沿線まちづくりには、鉄道を利用した移動需要が変化しつつある現状では、鉄道沿線における広域圏を1つの町として捉え、沿線の自治体と鉄道事業者が連携し、沿線都市圏の形成、沿線価値向上の2つのアプローチで、共通のコンセプトを持って取り組むことを提案して、持続可能な鉄道沿線のまちづくりを目指すことを示しています。

本市においても、都市計画マスタープランにおいて、JR常陸太田駅周辺地区は、常陸太田駅を中心とした交通利便性、都市機能の向上を目指すとしています。さらに、茨城県では、水郡線利用促進会議の中で、様々な水郡線の維持・活性化策を検討しているところです。

以上を踏まえて、市内のJR水郡線3駅の現状を把握し、その課題と対策を検討する点からも、鉄道を活用した地域の活性化について質問させていただきます。

初めに、JR水郡線の利用状況について、①常陸太田駅の年間乗車数についてお伺いします。

さらに②として、常陸太田駅の観光レンタカー、レンタサイクルの利用状況についてお伺いします。

次に、(2)として、JR水郡線各駅周辺の環境整備についてお伺いします。

駅利用者は、毎日、通勤・通学で駅を利用している方、月数回利用している方、初めて常陸太田市に来られた観光客など多様です。さらに、高齢者からお子さん連れの家族まで、年齢層も様々です。そのような多様な利用者のニーズに応える利便性の視点と、先に指摘したまちづくりの拠点としての位置づけから、①常陸太田駅の2次交通の接続の取組についてお伺いします。

さらに、河合駅、谷河原駅、そして常陸太田駅の3つの駅の環境整備の現状についてお伺いします。

次に、項目2、中学校部活動の地域移行について質問させていただきます。

中学校部活動の地域移行については、昨年までも一般質問で取り上げられてきました。その上、国や県の方針に基づき、本市では、市内のスポーツ少年団代表、スポーツ協会代表、文化団体連合会代表及び保護者代表である市PTA連合会代表、学識経験者、学校長会、教育委員会での検討会を組織し、今年度から、野球について地域野球クラブとして試行として活動しているこ

と、地域の指導者や保護者の皆様、そして、学校関係者との連携とその努力に敬意を表するところです。

このような試行的実施の中、各学校から参加している選手・生徒の皆さんの夢や期待に応えるためにも、今年度の試行の検証をいかにするかは重要かと考えます。選手・生徒の目線と保護者の願い、指導者の思いを含めた活動の目的に沿った検証が必要ではないでしょうか。

そこで、現在までの試行的取組の中で、中学校部活動の地域移行の現状について、部活動改革の4つの目的、1つ、生徒の多様化、高度化するスポーツ文化芸術的活動、2つ目として専門性のある指導者による質の高い技術指導、3つ目として、部活動を地域クラブとして実施できる環境の整備、そして、教職員の働き方改革に伴う部活動時間数の削減等を踏まえて、今年度の試行として、①地域移行の取組についてお伺いします。

そして、②として、地域移行の取組の成果と課題についてお伺いします。

次に、中学校部活動の地域移行の今後の取組についてです。

急速な少子化の中での生徒数の減少という市内7中学校の現状等、生徒一人ひとりの思いや願い、そして、保護者の理解も踏まえた上で、地域の指導者に協力を得ながらの部活動の地域移行を進めるに当たり、今年度の検証の方法と分析が大切かと考えます。

そこで、①本年度の検証と方法・内容についてお伺いします。

次に、今年度の試行の現状と課題を踏まえた②今後の地域移行の取組についてお伺いします。

以上2項目8件についてお伺いいたしまして、私の1回目の質問を終わりにします。ご答弁よろしくお祈いします。

○藤田謙二議長 答弁を求めます。企画部長。

[柴田道彰企画部長 登壇]

○柴田道彰企画部長 鉄道活用した地域の活性化につきまして、企画部関連のご質問にお答えをいたします。

1点目のJR水郡線常陸太田駅の利用状況についてでございますが、常陸太田駅の乗車人数は、JR東日本の発表によりますと、令和2年度が1日平均985人、令和3年度が890人、令和4年度が877人と減少しております。このうち、高校生などが多くを占める定期券利用者数につきましても、令和2年度が1日平均865人、令和3年度が761人、令和4年度が724人と減少している状況でございます。

2点目のJR水郡線各駅周辺的环境整備に関する常陸太田駅の2次交通の接続の取組についてでございますが、市は、法定協議会常陸太田市地域公共交通活性化協議会を組織し、毎年度、調査分析を踏まえた地域公共交通の再編に取り組んでおります。この中で、常陸太田駅の路線バス等への2次交通との接続につきましても、改善に向けた取組を進めております。

具体的には、平日の利用者の中心となります高校生などの登下校におきまして、駅から遠く、徒歩や自転車で駅に向かうことが困難な金砂郷、水府、里美地区から、路線バスとJR水郡線との接続、具体的には、登下校時、各地区1便、下校時、各地区4便または5便を維持するなど、高校生などの登下校時における利便性の確保に努めております。

休日につきましても、観光客等に向けて、竜神大吊橋行きの5便、帰りの5便、全ての路線バスがJR水郡線との接続を確保するとともに、本年4月には、東部地区商業施設の開業に合わせて、東部地区を経由する循環路線を4便新設いたしました。このうち3便については、JR水郡線との接続を確保しているところです。また、JR水郡線利用者のタクシーへの乗り継ぎにつきましても、常陸太田駅にタクシー乗降場、タクシープールを整備し、駅からのタクシー利用がスムーズに行われるように配慮をしております。

次に、各駅的环境整備の現状と課題についてでございますが、常陸太田駅につきましては、平成20年度から平成23年度にかけて、駅舎、駅前広場、ロータリー及び駐車場等を整備するとともに、現事業として、駅東側の2つの交差点を十字交差点に改良し、交通流動の円滑化及び駅利用者の利便性の向上を図ってまいりました。また、常陸太田駅から谷河原駅間の線路西側の侵入防止柵未設置箇所137メートルにつきましても、JR東日本に対して設置要望を行い、令和4年度に設置されたところです。

このほか、河合駅及び谷河原駅につきましては、平成21年度以降、河合駅に駐輪場と駐車を、谷河原駅に駐車を整備し、駅周辺的环境整備に努めてきております。

課題としましては、利用者の多くを占める高校生などに対する待合環境等の整備が挙げられますが、常陸太田駅での乗車人数が年々減少している状況にあるほか、高校生などの利用時間帯には偏りもありますことから、こうした点を踏まえた検討を進めてまいりたいと考えております。

○藤田謙二議長 商工観光部長。

〔根本晋商工観光部長 登壇〕

○根本晋商工観光部長 大項目、鉄道活用した地域の活性化のうち、常陸太田駅の観光レンタカー、レンタサイクルの利用状況のご質問にお答えいたします。

まず、観光レンタカーにつきましては、JR水郡線の利用促進、観光施設等への誘客促進等の交流人口の拡大を図るため、利用助成金を交付しており、その利用実績としまして、過去3年間の状況でございますが、令和2年度、46件、令和3年度、29件、令和4年度、79件となっております。

また、レンタサイクルにつきましては、鯨ヶ丘など、駅近郊の観光スポットの周遊の気軽な移動手段として、常陸太田駅で貸出しをしております。その利用実績としまして、令和2年度、165件、令和3年度、198件、令和4年度、285件となっております。

このように、両事業とも、ここ3年間に限定すれば利用者は増加しておりますが、コロナ禍前の利用実績には戻っていない状況でございます。

○藤田謙二議長 教育部長。

〔西野保教育部長 登壇〕

○西野保教育部長 中学校部活動の地域移行についてのご質問にお答えをいたします。

初めに、中学校部活動の地域移行の現状についての2点のご質問にお答えをいたします。

1点目の地域移行の取組についてでございますが、本年4月より、各中学校から希望を募り、計40名の生徒で地域野球クラブを開設いたしました。指導者は、少年団などで指導経験のあ

る地域指導員4名と兼職兼業の手続を取った各学校の野球部顧問5名、計9名を派遣し、毎週土曜日を基本に活動しているところであります。3年生が部活動を引退する前の6月の中学校総合体育大会までは3つのチームで活動し、7月以降は2つのチームを編成し、月2回を全員での合同練習に充てております。

2点目の地域移行の取組の成果と課題についてでございますが、成果といたしましては、地域移行を進めたことにより、所属中学校に野球部がなかった生徒も、複数の学校から成る拠点校チームとして大会に出場することができました。また、参加している生徒からは、人数が多く、充実した練習ができてうれしいという声が聞こえております。さらに、教職員の働き方改革という点でも、月2回は地域指導員が中心となって合同練習が行われることにより、顧問教員の負担軽減を図ることができました。一方、練習場所として中学校施設を使用することから、他の部活動との調整が必要となるなど、練習場所の確保が課題となっていることから、今後、学校間の連携を強化してまいります。

次に、中学校部活動の地域移行の今後の取組についての2点のご質問にお答えをいたします。

1点目の今年度の検証の方法、内容につきましては、指導者から聞き取りを行っておりますほか、今後、生徒や保護者を対象とした調査を実施し、検討委員会において検証を行い、今後の地域移行に活かしていくこととしております。

2点目の今後の地域移行の取組と課題についてでございますが、令和7年度までの3年間程度で、生徒数の減少によりチーム編成が困難となるバレーボール、サッカー、バスケットボールを優先して、計画的に進めていくこととしており、このうち、バレーボールにつきましては、今年度中の地域移行に向けて準備を進めているところでございます。

課題につきましては、指導者の確保と費用負担が挙げられます。指導者の確保につきましては、活動内容ごとに必要な資格を精査し、市内関係団体との情報共有や、県人材バンクの活用を図り、人材の確保に努めてまいりますことといたします。

費用負担につきましては、令和7年度までの移行期間は、国等の補助金を活用することで、保護者負担は保険料の年額800円のみとしておりますが、令和8年度以降につきましては、国等の補助金の動向を注視しながら、適切な受益者負担の在り方を検討してまいります。

引き続き、他の自治体での取組を参考にしながら、様々な地域クラブ活動の場が確保できるよう進めてまいります。

○藤田謙二議長 鴨志田議員。

〔3番 鴨志田悟議員 質問者席へ〕

○3番（鴨志田悟議員） ご答弁ありがとうございました。

常陸太田駅の乗車人数は、コロナ禍の中ではありましたが、年々減少傾向であること、また、定期券利用者も同様の減少傾向にあること、把握できました。本市の抱える人口減少化対策の視点からも、また、まちづくりの拠点としての課題からも、乗車人数の減少傾向の問題は喫緊の対策が必要かと考えます。

次に、常陸太田駅の観光レンタカー、レンタサイクルの利用状況の傾向はつかめましたが、特

に、観光レンタカーの利用者は、コロナ禍にもかかわらず増加していること。まちづくりの観点からも、1つのヒントになるのかと思います。

そこで、改めて、観光レンタカー、レンタサイクルの取組の課題についてお伺いいたします。

○藤田謙二議長 答弁を求めます。商工観光部長。

○根本晋商工観光部長 ただいまの、2回目のご質問にお答えいたします。

1回目でも答弁しましたように、2つの事業とも、ここ3年間に限定すれば利用者は増加しておりますものの、コロナ禍前への利用実績には戻っていない状況でございます。

両事業とも、交流人口の拡大等を通じた地域活性化につなげることが目的でございますので、利用者数をコロナ禍前の水準に早期に回復させるだけでなく、利用者をさらに増加させ、交流人口の拡大による地域の活性化につなげることが期待されます。

このため、まず、レンタカー事業につきましては、利用者の立ち寄り実績を確認しますと、平均2か所程度であることから、さらなる市内回遊の促進や消費拡大に向けて、観光地やイベント情報に加え、旬の農産物や飲食店の紹介、さらには、モデルルートの提案などを行い、これらの情報をホームページやSNS等の活用による発信強化やレンタカー事業者との一層の連携により、利用者増加に努めてまいりたいと考えております。

次に、レンタサイクルにつきましても、レンタサイクルの安全性を確保するための適切なメンテナンスや自転車の更新、さらには、ヘルメットの着用義務などによる安全面の管理体制の徹底を図りながら、レンタカー事業同様に、モデルコースの追加等に加え、イベントに絡めた利用促進PR等の情報発信に努めてまいりたいと考えております。

○藤田謙二議長 鴨志田議員。

○3番（鴨志田悟議員） ありがとうございます。ただいま示されました課題につきまして、安全面も含めて、示された対策をよろしく申し上げます。

続いて、常陸太田駅の2次交通の接続についてですが、ふだんの路線バスへの2次交通との接続や、高校生、中学生や観光客等の利用者への配慮、本年4月からの東部地区を経由する循環路線の新設等の利便性の確保については、理解できました。今後も、利用者の実態ニーズを踏まえた2次交通の接続をお願いします。

また、各駅的环境整備につきましては、鉄道の安全管理も含めて進めていること、理解できました。その点も含めて多様な利用者の利便性、例えば、駅を拠点としたウォーキング利用者への配慮、さらには観光客等への対応をするためにも、河合駅、谷河原駅の工夫した案内板等の設置も望みます。

常陸太田駅的环境整備についても、利便性の観点から整備が進んでいることを理解できました。さらに、まちづくりの拠点としての視点、定期券利用者である高校生・中学生の利便性の確保、駅周辺の商店街を含んだ活性化策が必要かと考えます。近隣の自治体の整備状況等も参考にしながら、ぜひ、常陸太田駅の玄関としての常陸太田駅を拠点としたまちづくりの視点からの検討もよろしく申し上げます。

以上で質問を終わりにします。ありがとうございました。